

### 問14 生涯学習対策

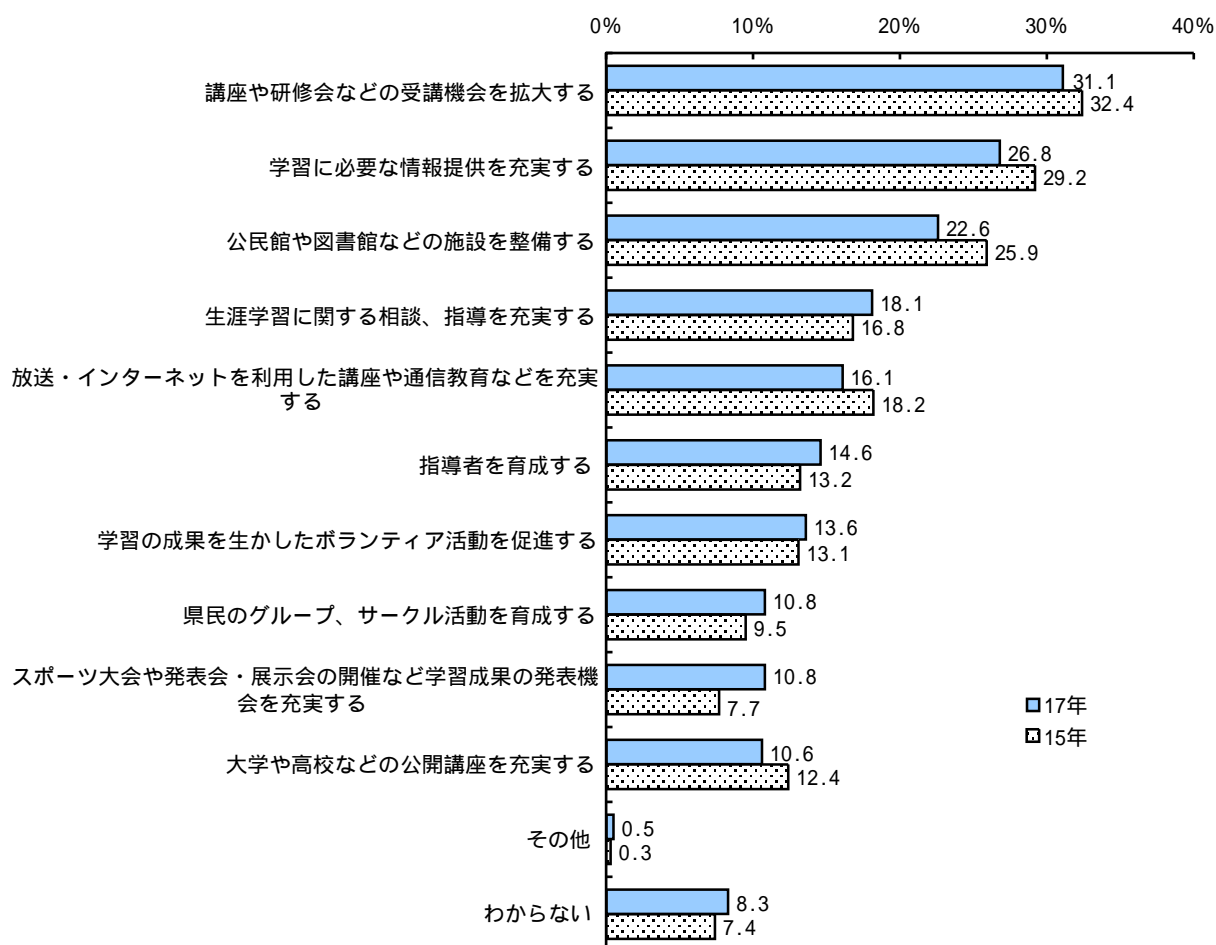
あなたは、生涯学習をさらに充実するためには、県はどのようなことに特に力を入れたいと思いますか。次の中から二つまで選んで番号を でかこんでください。

(複数回答) (%)

1	講座や研修会などの受講機会を拡大する	31.1
2	放送・インターネットを利用した講座や通信教育などを充実する	16.1
3	大学や高校などの公開講座を充実する	10.6
4	公民館や図書館などの施設を整備する	22.6
5	県民のグループ、サークル活動を育成する	10.8
6	生涯学習に関する相談、指導を充実する	18.1
7	指導者を育成する	14.6
8	学習に必要な情報提供を充実する	26.8
9	学習の成果を生かしたボランティア活動を促進する	13.6
10	スポーツ大会や発表会・展示会の開催など学習成果の発表機会を充実する	10.8
11	その他	0.5
12	わからない	8.3

生涯学習をさらに充実するためには、県はどのようなことに特に力を入れたいと思うかを聞いたところ、「講座や研修会などの受講機会を拡大する」と答えた人の割合が31.1%と最も多く、以下「学習に必要な情報提供を充実する」(26.8%)、「公民館や図書館などの施設を整備する」(22.6%)、「生涯学習に関する相談、指導を充実する」(18.1%)、「放送・インターネットを利用した講座や通信教育などを充実する」(16.1%)などの順となっている。

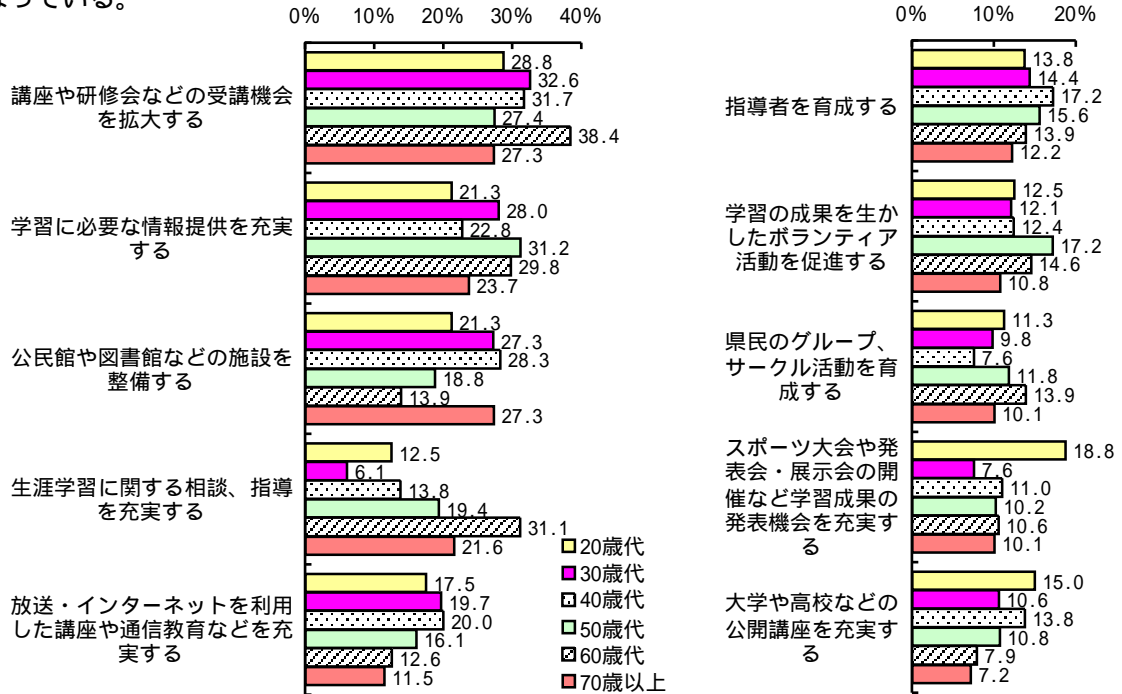
なお、前回調査結果と比較すると、「スポーツ大会や発表会・展示会の開催など学習成果の発表機会を充実する」と答えた人の割合は3.1ポイント増加し、「公民館や図書館などの施設を整備する」は3.3ポイント減少している。



### 【年齢別】

年齢別にみると、50歳代では「学習に必要な情報提供を充実する」と答えた人の割合が、70歳以上は「講座や研修会などの受講機会を拡大する」と「公民館や図書館などの施設を整備する」が同率で、その他の年齢層では「講座や研修会などの受講機会を拡大する」が最も多くなっている。

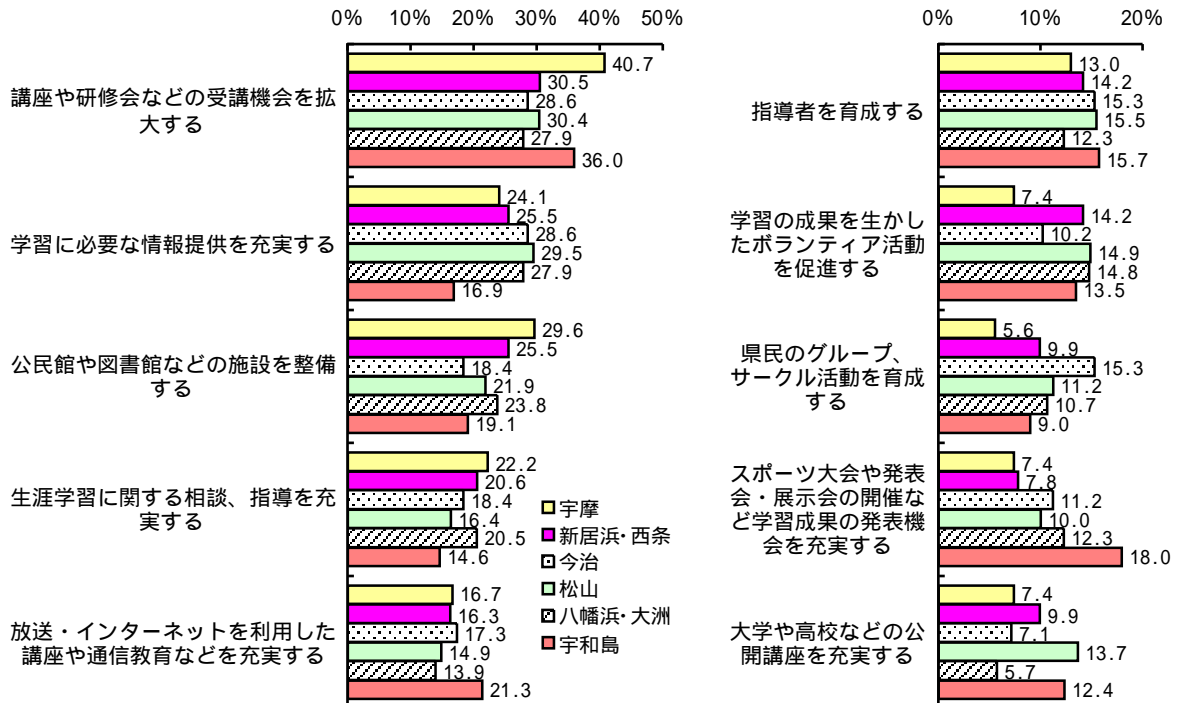
なお、「生涯学習に関する相談、指導を充実する」と答えた人の割合は60歳代で、「スポーツ大会や発表会・展示会の開催など学習成果の発表機会を充実する」は20歳代で、他の年齢層と比較して多くなっている。



### 【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「講座や研修会などの受講機会を拡大する」と答えた人の割合が最も多いが、今治、八幡浜・大洲圏域ではこの項目と「学習に必要な情報提供を充実する」が同率となっている。

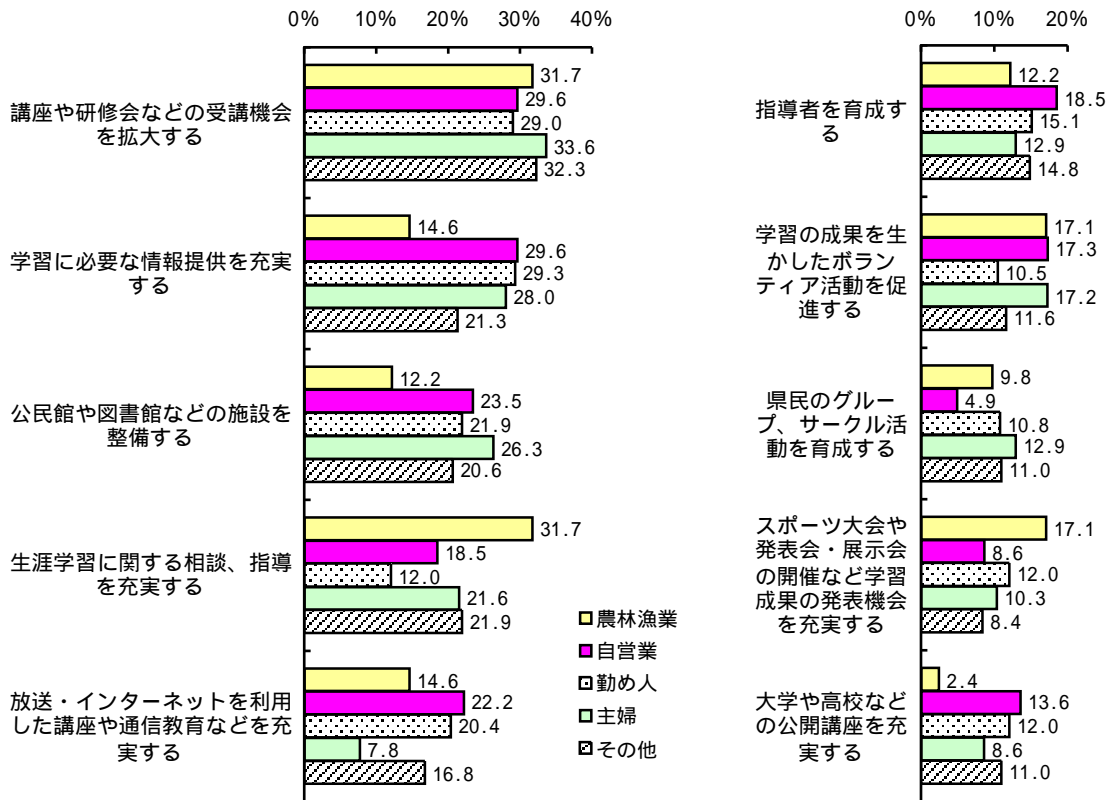
また、「公民館や図書館などの施設を整備する」と答えた人の割合は宇摩圏域で、「県民のグループ、サークル活動を育成する」は今治圏域で、「スポーツ大会や発表会・展示会の開催など学習成果の発表機会を充実する」は宇和島圏域で、他の生活圏域と比較して多くなっている。



## 【職業別】

職業別にみると、農林漁業、主婦、主婦、その他では「講座や研修会などの受講機会を拡大する」と答えた人の割合が、勤め人では「学習に必要な情報提供を充実する」が、自営業はこの2項目が最も多くなっている。

また、「生涯学習に関する相談、指導を充実する」、「スポーツ大会や発表会・展示会の開催など学習成果の発表機会を充実する」と答えた人の割合は農林漁業で、「放送・インターネットを利用した講座や通信教育などを充実する」は自営業で、他の職業と比較して多くなっている。



### 問15 青少年対策

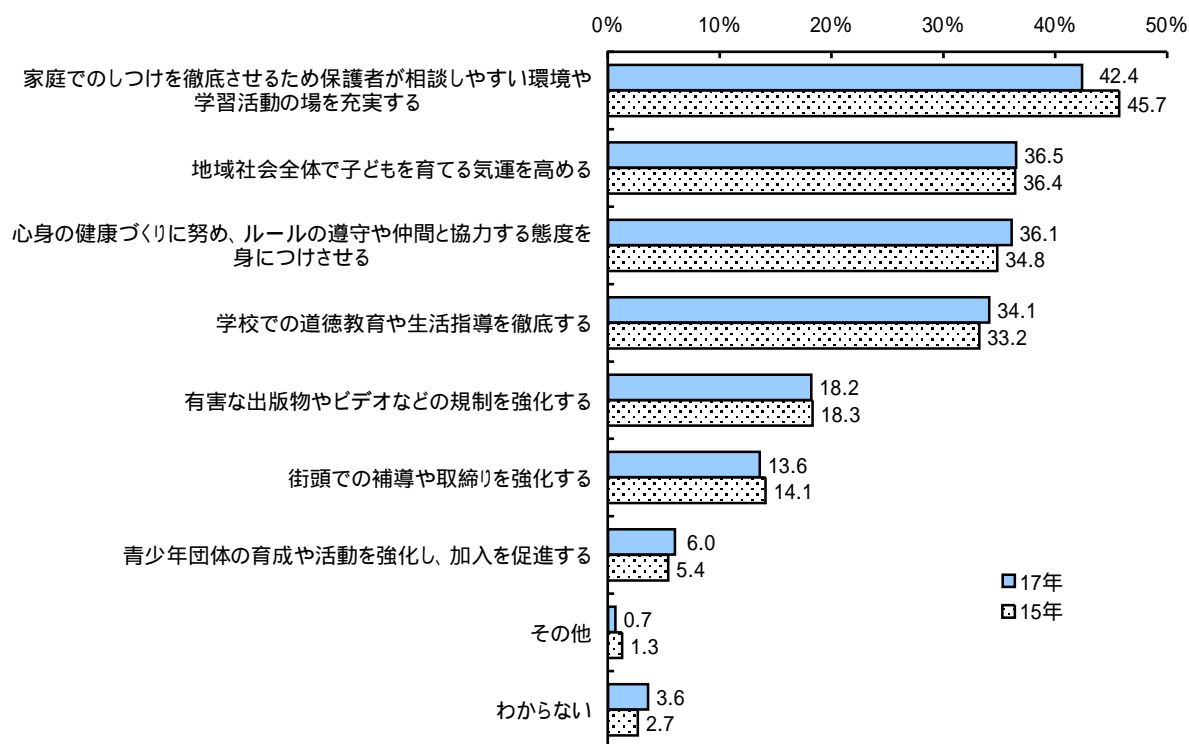
あなたは、青少年を健全に育成するためには、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。次の中から二つまで選んで番号を でかこんでください。

(複数回答) (%)

1 学校での道徳教育や生活指導を徹底する	34.1
2 家庭でのしつけを徹底させるため保護者が相談しやすい環境や学習活動の場を充実する	42.4
3 地域社会全体で子どもを育てる気運を高める	36.5
4 有害な出版物やビデオなどの規制を強化する	18.2
5 青少年団体の育成や活動を強化し、加入を促進する	6.0
6 街頭での補導や取締りを強化する	13.6
7 スポーツ・レクリエーション活動を通じた心身の健康づくりに努めるとともに、その活動を通じてルールへの遵守や仲間と協力する態度を身につけさせる	36.1
8 その他	0.7
9 わからない	3.6

青少年を健全に育成するためには、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思うかを聞いたところ、「家庭でのしつけを徹底させるため保護者が相談しやすい環境や学習活動の場を充実する」と答えた人の割合が42.4%と最も多く、以下「地域社会全体で子どもを育てる気運を高める」(36.5%)、「心身の健康づくりに努め、ルールへの遵守や仲間と協力する態度を身につけさせる」(36.1%)、「学校での道徳教育や生活指導を徹底する」(34.1%)などの順となっている。

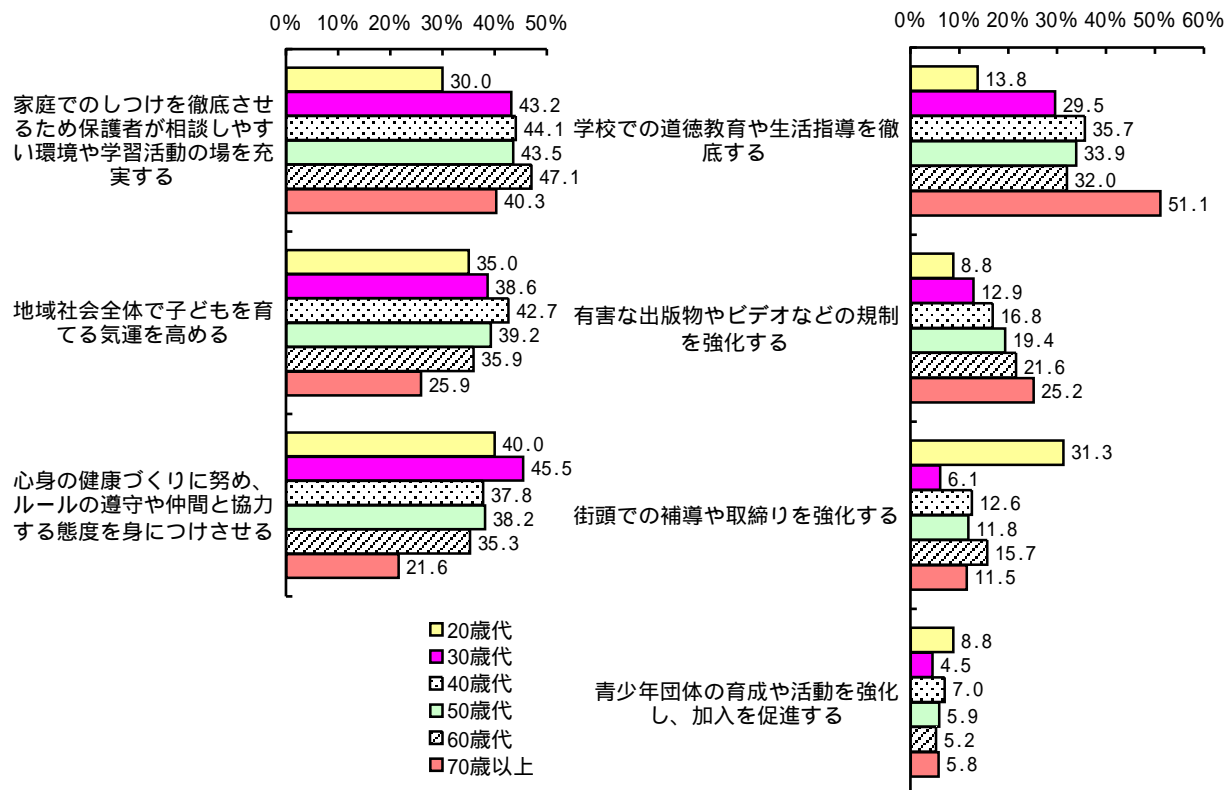
なお、前回調査結果と比較すると、「家庭でのしつけを徹底させるため保護者が相談しやすい環境や学習活動の場を充実する」と答えた人の割合は3.3ポイント減少しているものの、その他には大きな変動はない。



### 【年齢別】

年齢別にみると、20歳代、30歳代では「心身の健康づくりに努め、ルールへの遵守や仲間と協力する態度を身につけさせる」と答えた人の割合が、70歳以上は「学校での道徳教育や生活指導を徹底する」が、その他の年齢層では「家庭でのしつけを徹底させるため保護者が相談しやすい環境や学習活動の場を充実する」が最も多くなっている。

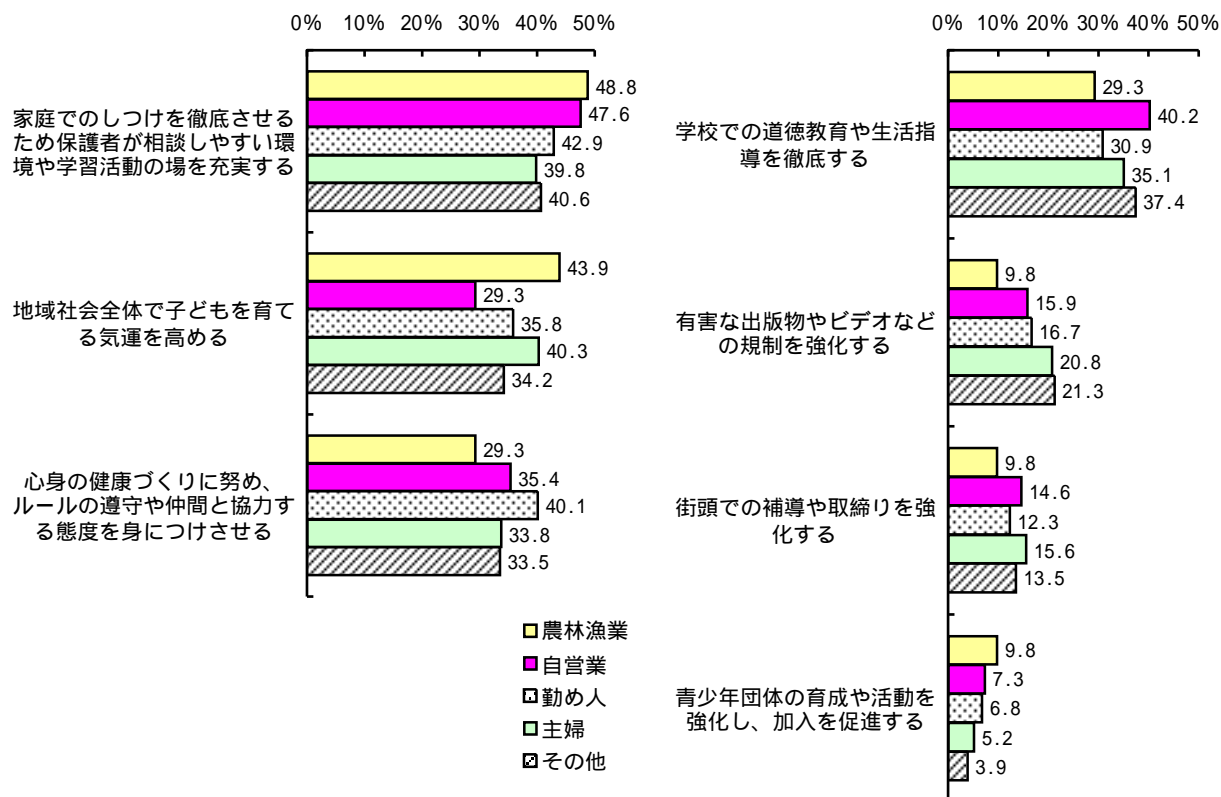
また、「学校での道徳教育や生活指導を徹底する」と答えた人の割合は70歳代で、「街頭での補導や取締りを強化する」は20歳代で、それぞれ他の年齢層と比較して特になくなっている。



### 【職業別】

職業別にみると、主婦では「地域社会全体で子どもを育てる気運を高める」と答えた人の割合が、他の職業では「家庭でのしつけを徹底させるため保護者が相談しやすい環境や学習活動の場を充実する」が最も多くなっている。

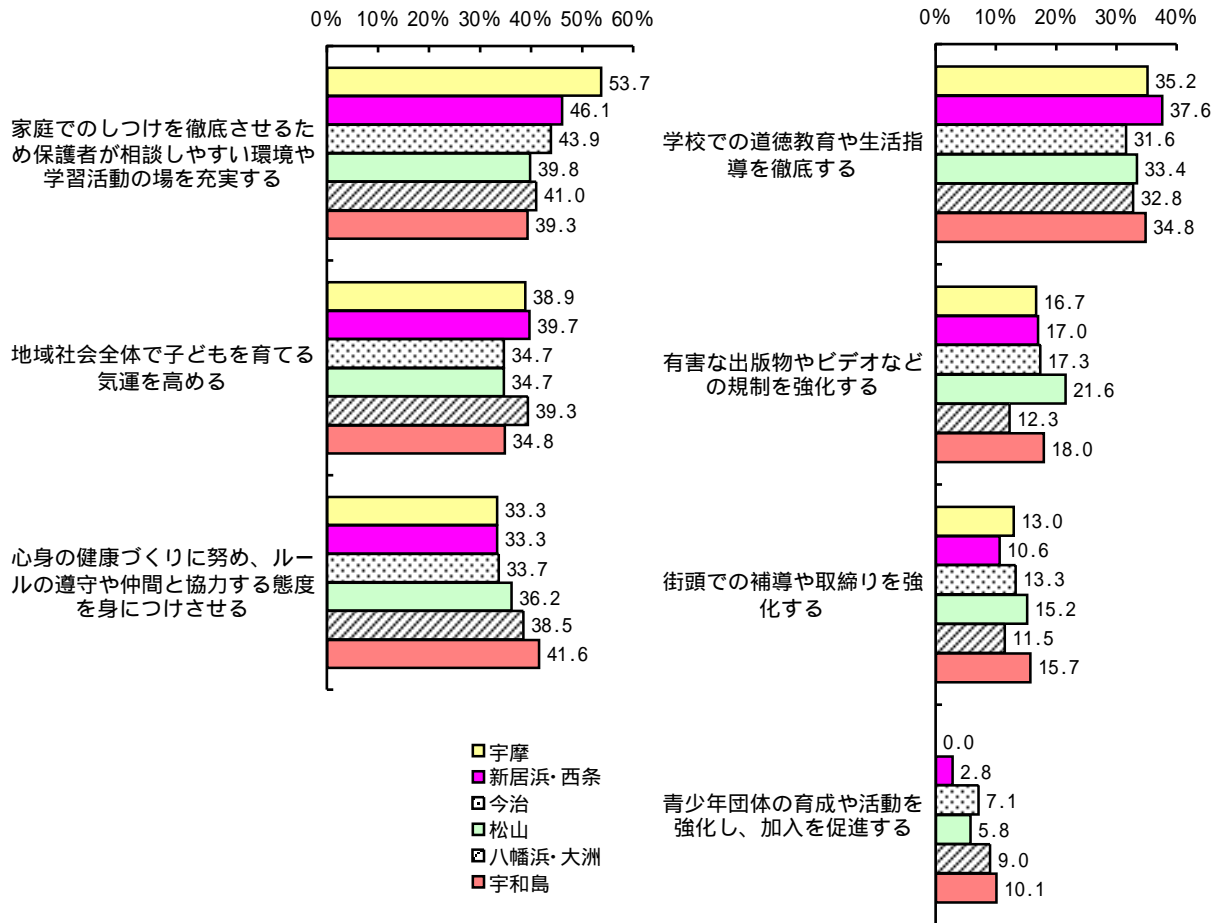
また、「心身の健康づくりに努め、ルールへの遵守や仲間と協力する態度を身につけさせる」と答えた人の割合は勤め人で、「学校での道徳教育や生活指導を徹底する」は自営業で、他の職業と比較して多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、宇和島圏域では「心身の健康づくりに努め、ルールの遵守や仲間との協力する態度を身につけさせる」と答えた人の割合が、その他の生活圏域では「家庭でのしつけを徹底させるため保護者が相談しやすい環境や学習活動の場を充実する」最も多くなっている。

また、「有害なビデオなどの規制を強化する」と答えた人の割合は松山圏域で他の生活圏域と比較して多くなっている。



## 問16 文化振興対策

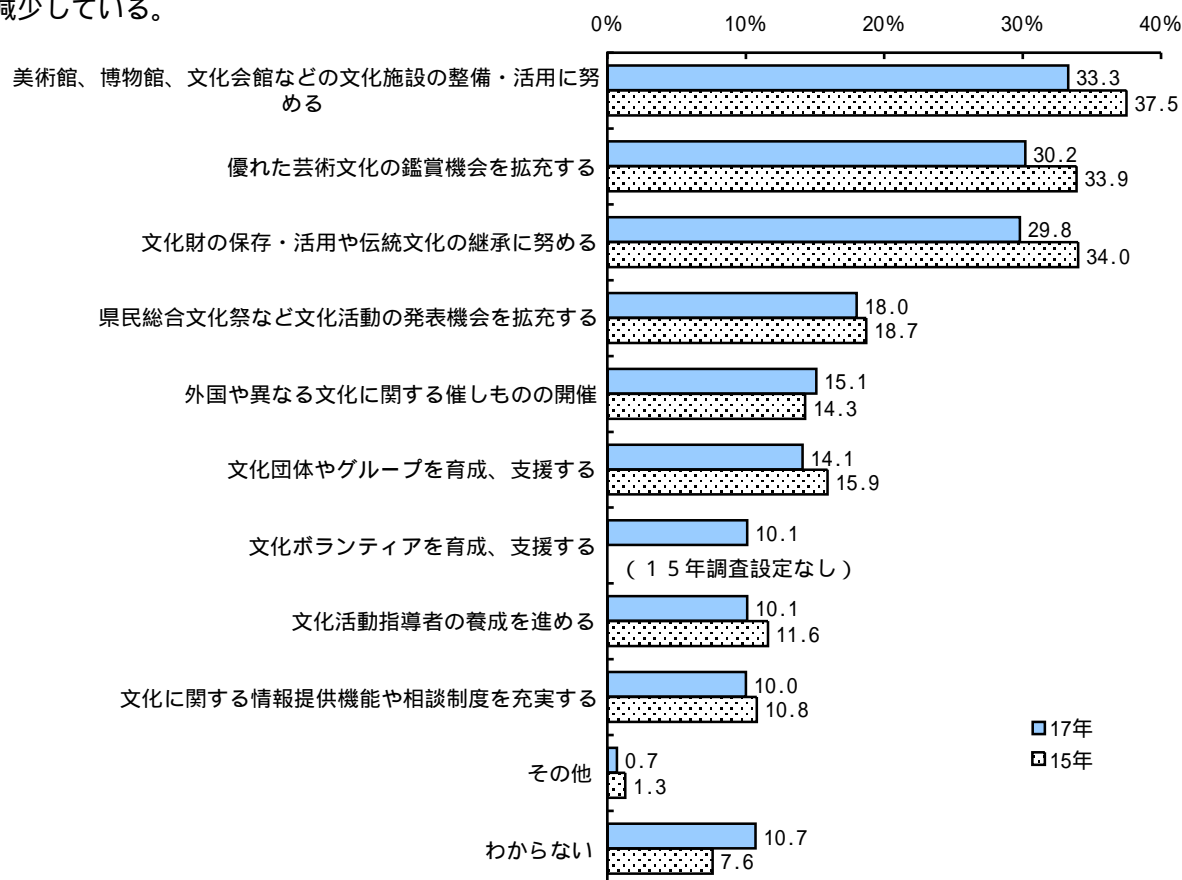
あなたは、県民の文化活動を促進するためには、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。次の中から二つまで選んで番号を でかこんでください。

(複数回答) (%)

1	美術館、博物館、文化会館などの文化施設の整備・活用に努める	33.3
2	県民総合文化祭など文化活動の発表機会を拡充する	18.0
3	優れた芸術文化の鑑賞機会を拡充する	30.2
4	文化団体やグループを育成、支援する	14.1
5	文化ボランティアを育成、支援する	10.1
6	文化活動指導者の養成を進める	10.1
7	文化に関する情報提供機能や相談制度を充実する	10.0
8	文化財の保存・活用や伝統文化の継承に努める	29.8
9	外国や異なる文化に関する催しものの開催	15.1
10	その他	0.7
11	わからない	10.7

県民の文化活動を促進するためには、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思うかを聞いたところ、「美術館、博物館、文化会館などの文化施設の整備・活用に努める」と答えた人が33.3%と最も多く、以下「優れた芸術文化の鑑賞機会を拡充する」(30.2%)、「文化財の保存・活用や伝統文化の継承に努める」(29.8%)、「県民総合文化祭など文化活動の発表機会を拡充する」(18.0%)などの順となっている。

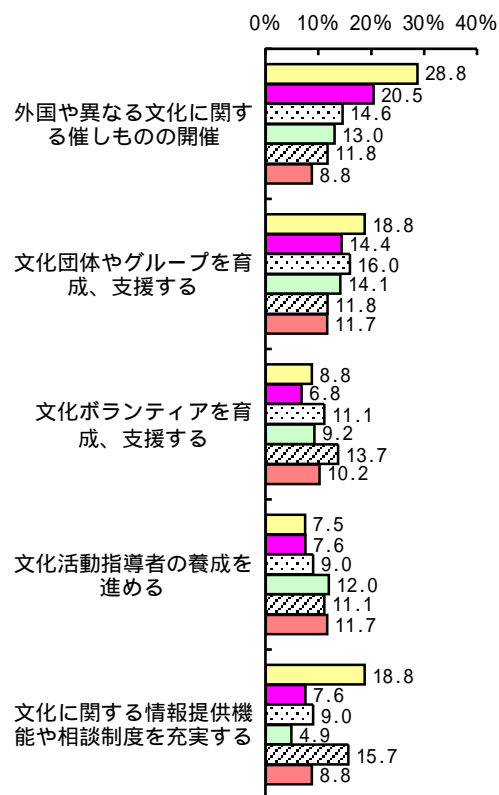
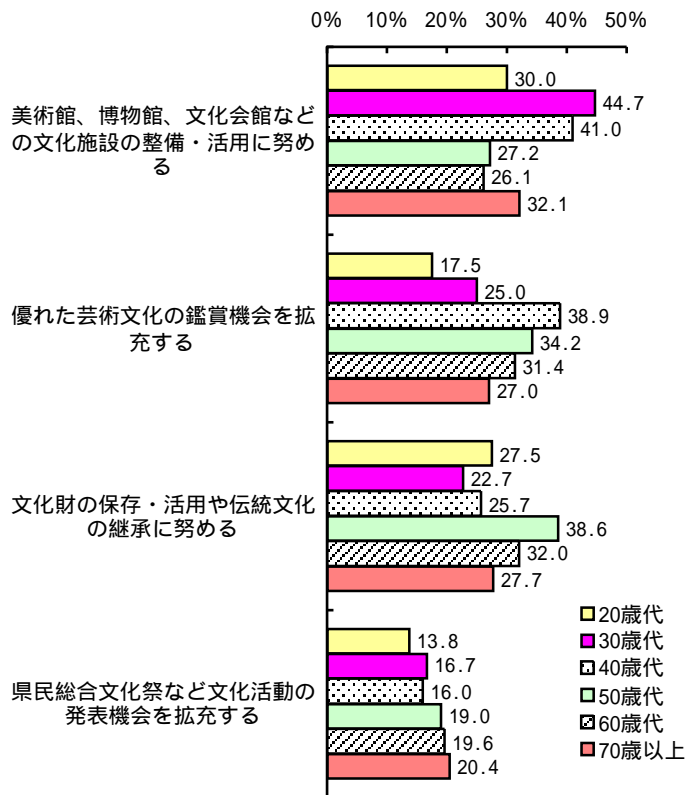
なお、前回調査結果と比較すると、上位3項目はそれぞれ4.2ポイント、3.7ポイント、4.2ポイント減少している。



### 【年齢別】

年齢別にみると、50歳代、60歳代では「文化財の保存・活用や伝統文化の継承に努める」と答えた人の割合が、その他の年齢層では「美術館、博物館、文化会館などの文化施設の整備・活用に努める」が最も多くなっている。

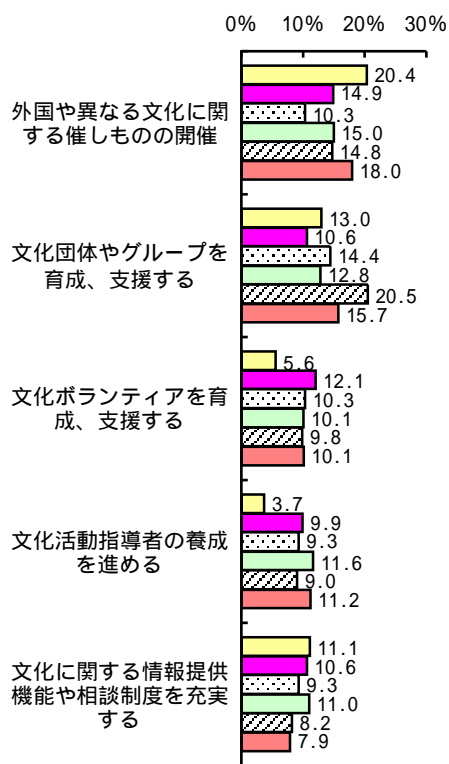
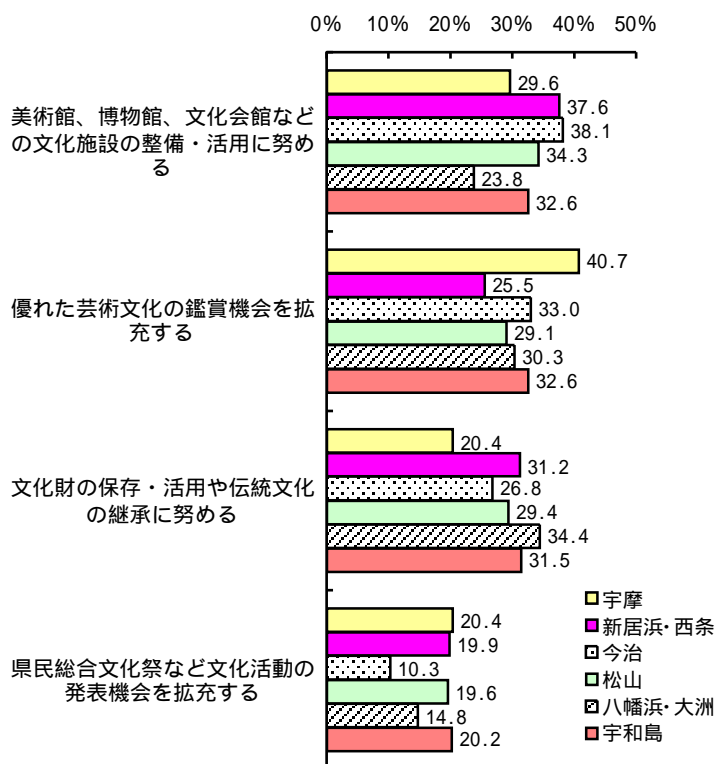
また、「優れた芸術文化の鑑賞機会を拡充する」と答えた人の割合は40歳代で他の年齢層と比較して多く、「外国や異なる文化に関する催しものの開催」は若年層になるほど多く、20歳代で28.8%となっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、新居浜・西条圏域、今治圏域、松山圏域では「美術館、博物館、文化会館などの文化施設の整備・活用に努める」と答えた人の割合が、宇摩圏域では「優れた芸術文化の鑑賞機会を拡充する」が、宇和島圏域はこの2項目が同率で、八幡浜圏域は「文化財の保存・活用や伝統文化の継承に努める」が最も多くなっている。

また、「外国や異なる文化に関する催しものの開催」と答えた人の割合は宇摩、宇和島圏域で、「文化団体やグループを育成、支援する」は八幡浜・大洲圏域で、他の生活圏域と比較して多くなっている。





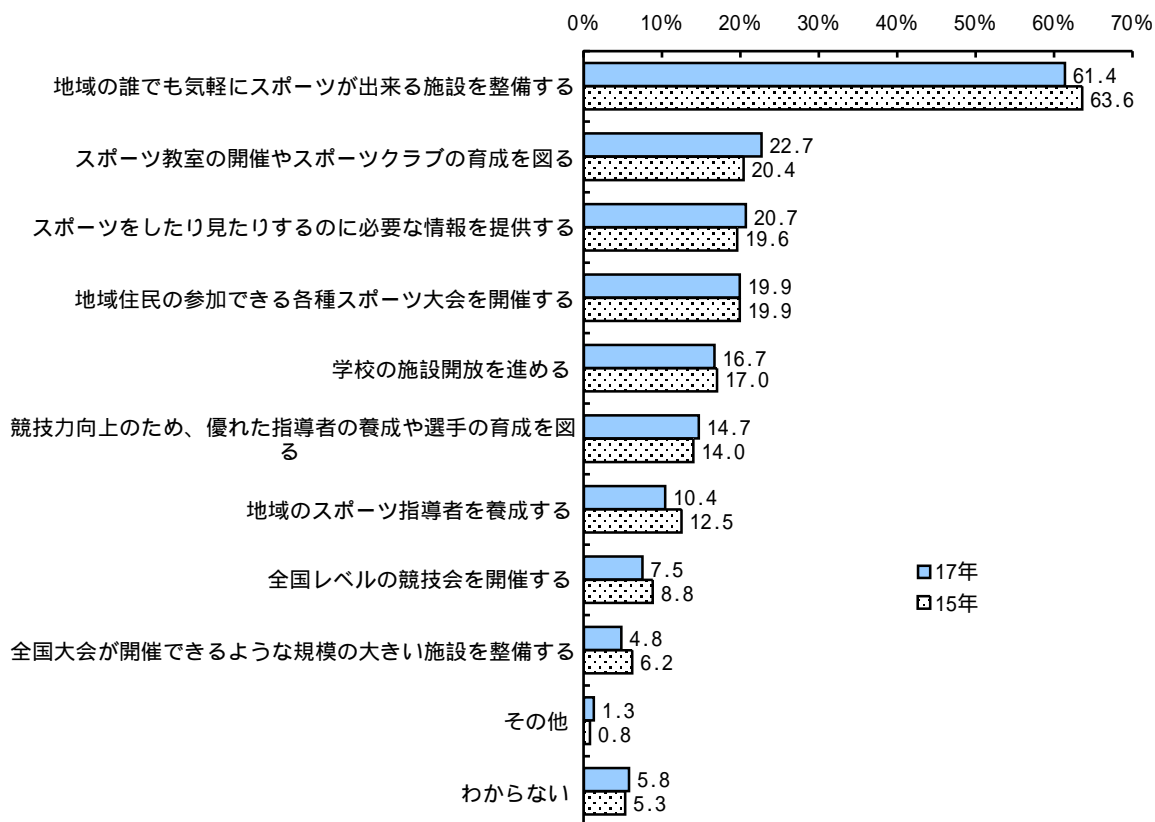
## 問17 スポーツ振興対策

あなたは、スポーツ振興対策として、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。次の中から二つまで選んで番号を でかこんでください。

	(複数回答)	(%)
1 スポーツ教室の開催やスポーツクラブの育成を図る	22.7	22.7
2 地域の誰でも気軽にスポーツが出来る施設を整備する	61.4	61.4
3 地域のスポーツ指導者を養成する	10.4	10.4
4 学校の施設開放を進める	16.7	16.7
5 地域住民の参加できる各種スポーツ大会を開催する	19.9	19.9
6 全国大会が開催できるような規模の大きい施設を整備する	4.8	4.8
7 競技力向上のため、優れた指導者の養成や選手の育成を図る	14.7	14.7
8 全国レベルの競技会を開催する	7.5	7.5
9 スポーツをしたり見たりするのに必要な情報を提供する	20.7	20.7
10 その他 ( )	1.3	1.3
11 わからない	5.8	5.8

スポーツ振興対策として、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思うかを聞いたところ、「地域の誰でも気軽にスポーツが出来る施設を整備する」と答えた人の割合が61.4%と特に多く、以下「スポーツ教室やスポーツクラブの育成を図る」(22.7%)、「スポーツを見たりするのに必要な情報を提供する」(20.7%)、「地域住民の参加できる各種スポーツ大会を開催する」(19.9%)などの順となっている。

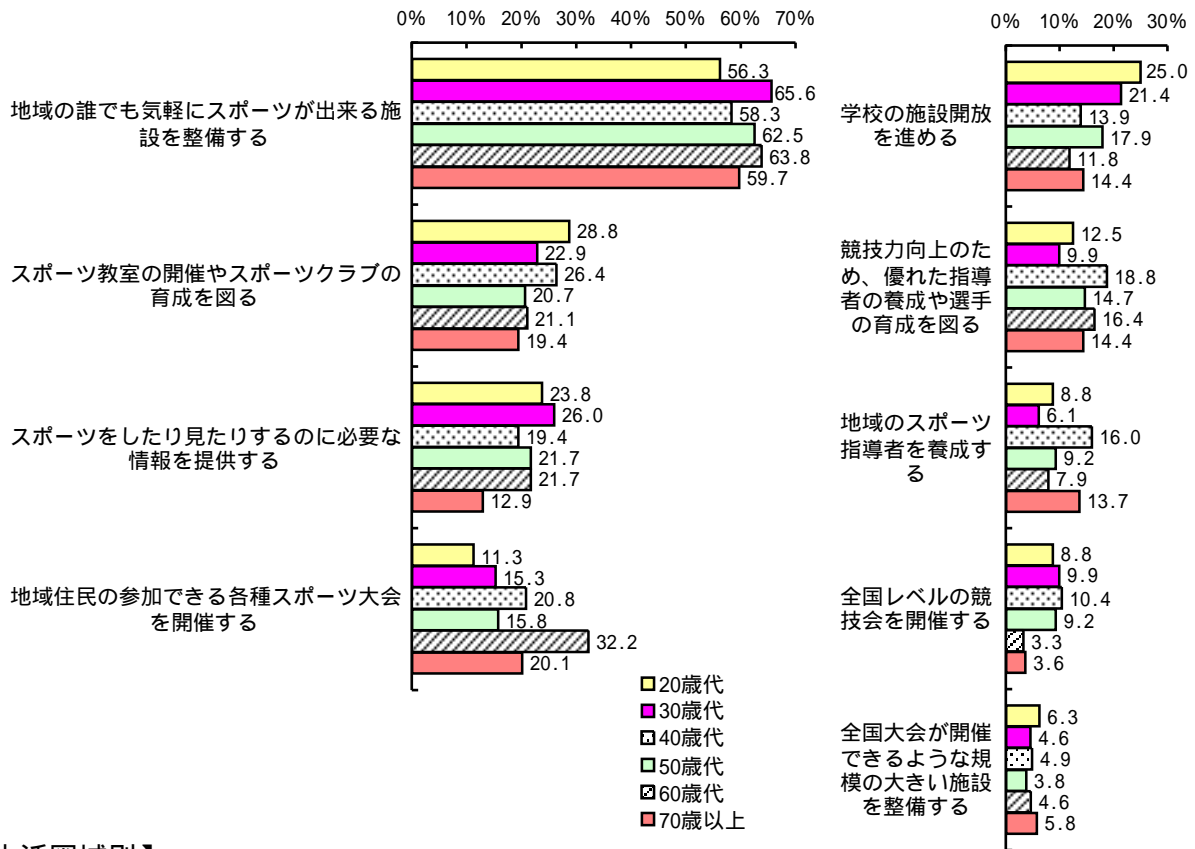
また、前回調査結果と比較すると、「スポーツ教室やスポーツクラブの育成を図る」と答えた人の割合が2.3ポイント増加しているが、その他に大きな変動は見られない。



### 【年齢別】

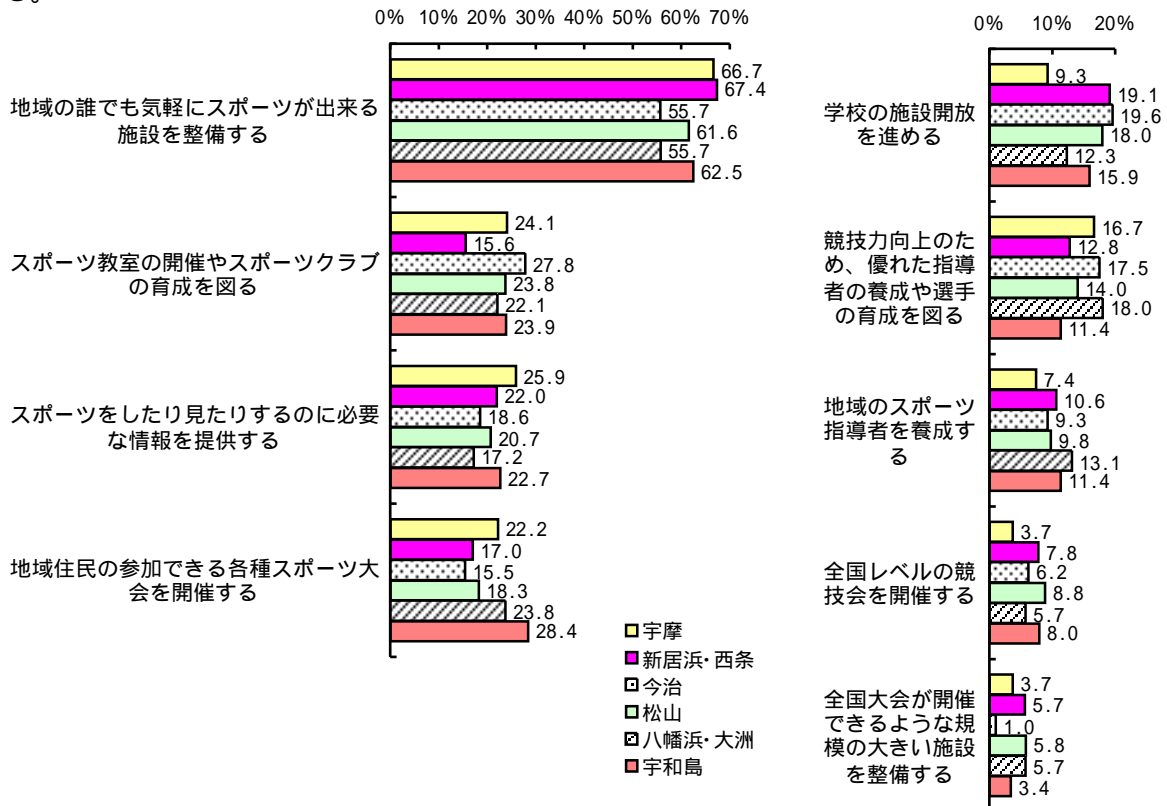
年齢別にみると、いずれの年齢層においても「地域住民の参加できる各種スポーツ大会を開催する」と答えた人の割合が特に多く、中でも30歳代は65.6%と多くなっている。

また、「地域住民の参加できる各種スポーツ大会を開催する」と答えた人の割合は60歳代で、「学校の施設開放を進める」は20歳代で、他の年齢層と比較して多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、いずれの生活圏域においても「地域住民の参加できる各種スポーツ大会を開催する」と答えた人の割合が特に多く、中でも新居浜・西条圏域（67.4%）で最も多くなっている。また、「スポーツ教室やスポーツクラブの育成を図る」と答えた人の割合は今治圏域で、「地域住民の参加できる各種スポーツ大会を開催する」は宇和島圏域で、他の生活圏域と比較して多くなっている。



問18 男女共同参画の推進対策

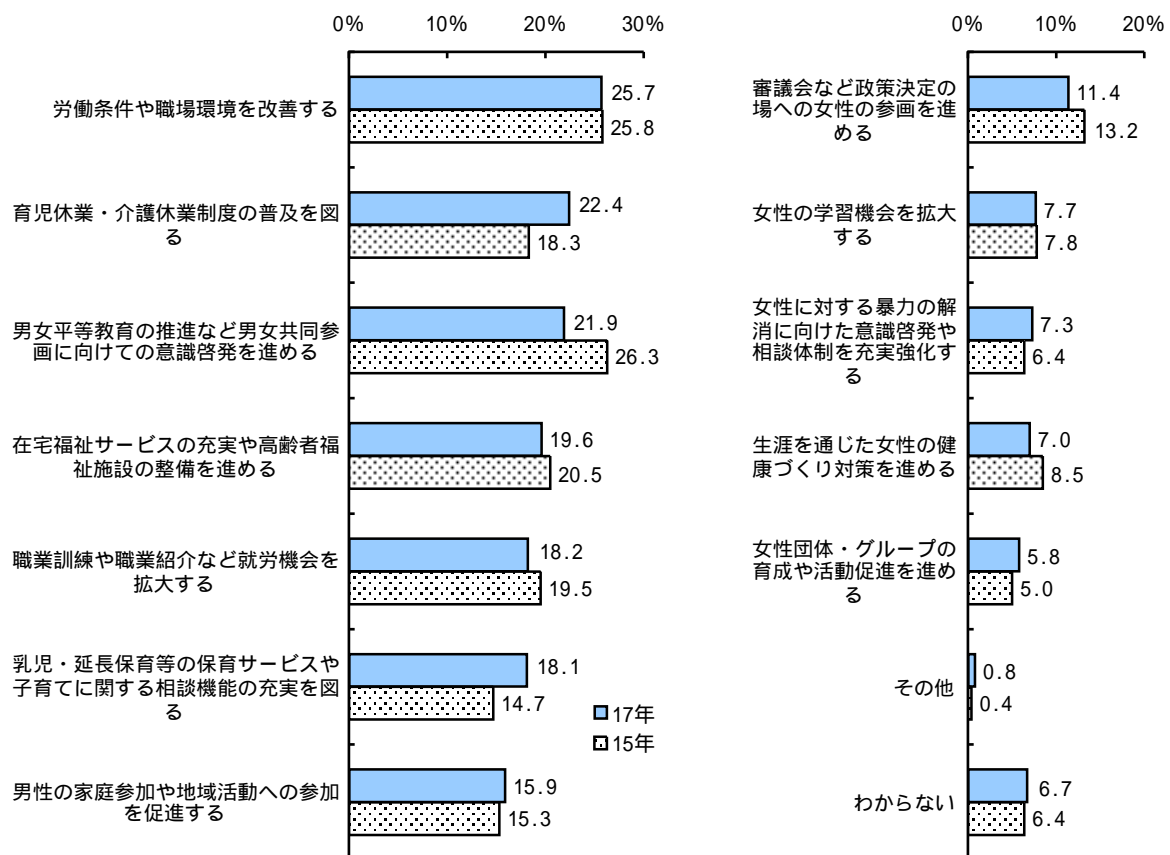
あなたは、男女共同参画社会づくりに向けて、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。次の中から二つまで選んで番号を○でかこんでください。

(複数回答) (%)

1 男女平等教育の推進など男女共同参画に向けての意識啓発を進める	21.9
2 審議会など政策決定の場への女性の参画を進める	11.4
3 女性の学習機会を拡大する	7.7
4 女性団体・グループの育成や活動促進を進める	5.8
5 在宅福祉サービスの充実や高齢者福祉施設の整備を進める	19.6
6 乳児・延長保育等の保育サービスや子育てに関する相談機能の充実を図る	18.1
7 生涯を通じた女性の健康づくり対策を進める	7.0
8 職業訓練や職業紹介など就労機会を拡大する	18.2
9 労働条件や職場環境を改善する	25.7
10 育児休業・介護休業制度等の普及を図る	22.4
11 男性の家庭参加や地域活動への参加を促進する	15.9
12 女性に対する暴力の解消に向けた意識啓発や相談体制を充実強化する	7.3
13 その他	0.8
14 わからない	6.7

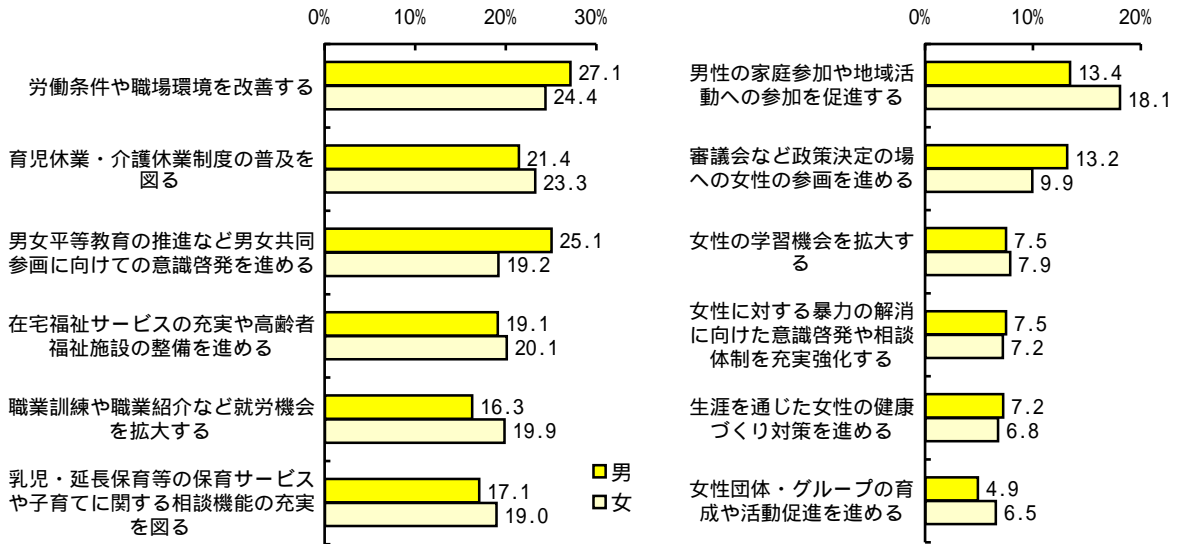
男女共同参画社会づくりに向けて、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思うかを聞いたところ、「労働条件や職場環境を改善する」と答えた人の割合が25.7%と最も多く、以下「育児休業・介護休業青銅の普及を図る」(22.4%)、「男女平等教育の推進など男女共同参画に向けての意識啓発を進める」(21.9%)、「在宅福祉サービスの充実や高齢者福祉施設の整備を進める」(19.6%)、「職業訓練や職業紹介など就労機会を拡大する」(18.2%)などの順となっている。

また、前回調査結果と比較すると、「育児休業・介護休業青銅の普及を図る」と答えた人の割合は4.1ポイント増加し、第5位から第2位に上昇し、「男女平等教育の推進など男女共同参画に向けての意識啓発を進める」は4.4ポイント減少し、第1位から第3位に下降している。



## 【性別】

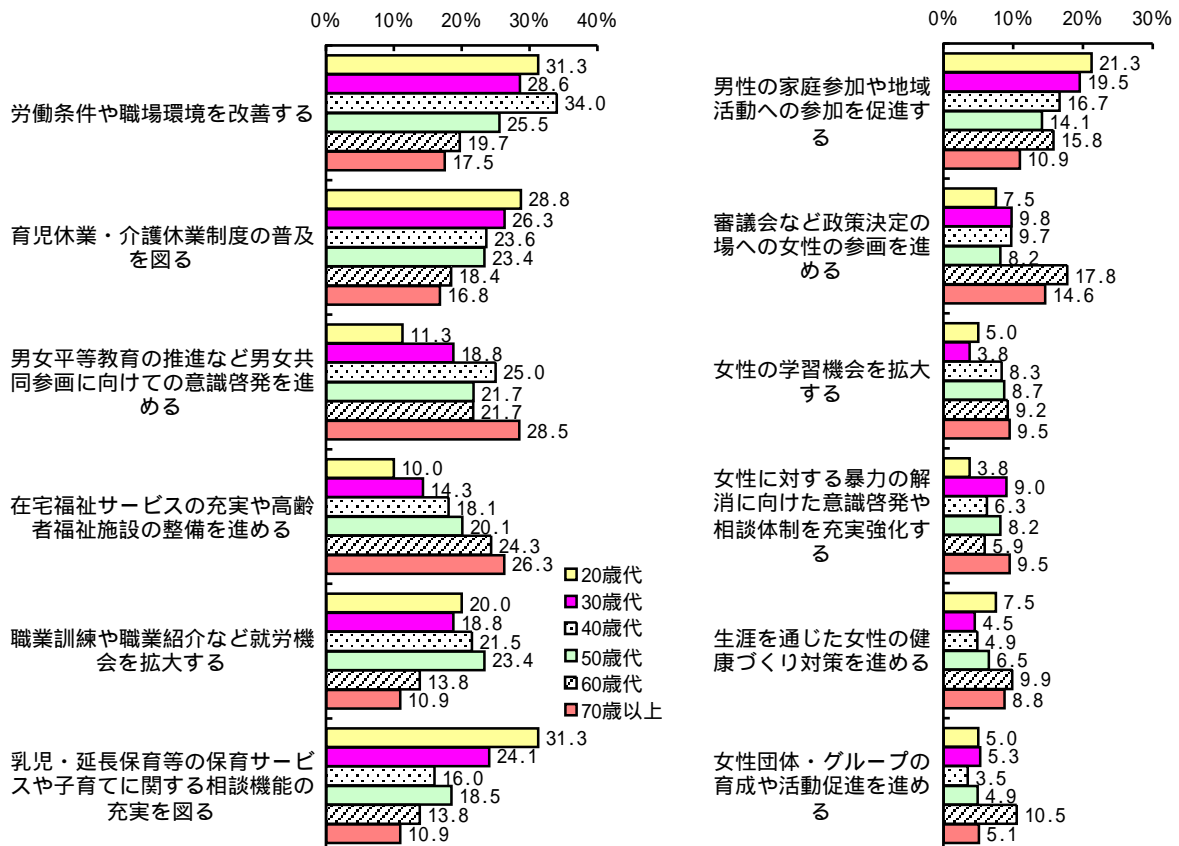
性別にみると、男女とも「労働条件や職場環境を改善する」と答えた人の割合が多くなっている。また、「男女平等教育の推進など男女共同参画型に向けての意識啓発を進める」と答えた人の割合は女性より男性が5.9ポイント多く、「男性の家庭参加や地域活動への参加を促進する」は男性より女性で4.7ポイント多くなっている。



## 【年齢別】

年齢別にみると、60歳代は「在宅福祉サービスの充実や高齢者福祉施設の整備を進める」と答えた人の割合が、70歳以上は「男女平等教育の推進など男女共同参画型に向けての意識啓発を進める」が、その他の年齢層は「労働条件や職場環境を改善する」と答えた人の割合が最も多く、20歳代ではこの項目と「乳児・延長保育等の保育サービスや子育てに関する相談機能の充実を図る」が同率となっている。

また、「育児休業・介護休業制度の普及を図る」、「乳児・延長保育等の保育サービスや子育てに関する相談機能の充実を図る」、「男性の家庭参加や地域活動への参加を促進する」と答えた人の割合は年齢層が低いほど割合が多くなっている。



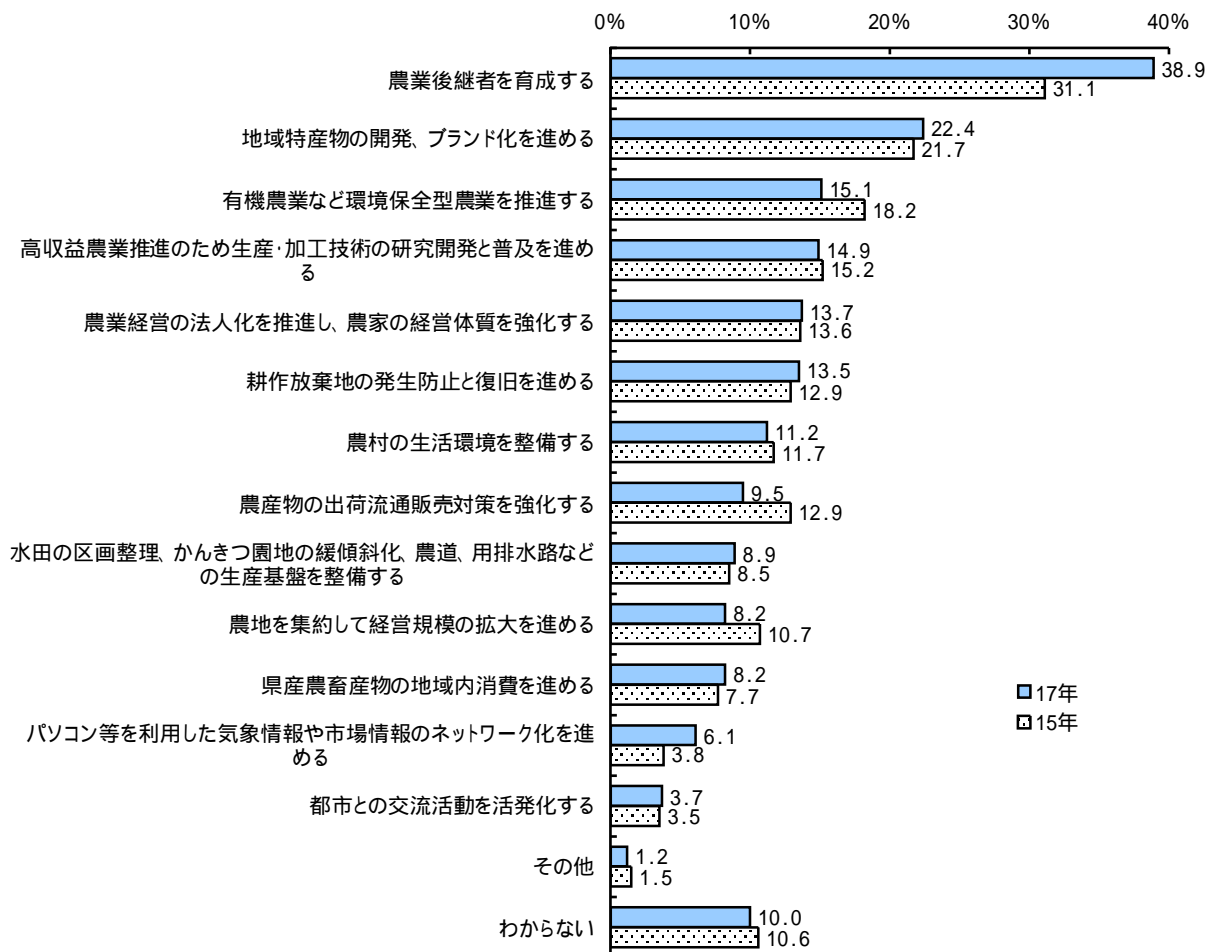
問19 農業対策

あなたは、県内の農業をもっと盛んにするためには、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。次の中から二つまで選んで番号を でかこんでください。  
(複数回答) (%)

1	農地を集約して経営規模の拡大を進める	8.2
2	農業経営の法人化を推進し、農家の経営体質を強化する	13.7
3	耕作放棄地の発生防止と復旧を進める	13.5
4	水田の区画整理、かんきつ園地の緩傾斜化、農道、用排水路などの生産基盤を整備する	8.9
5	高収益農業推進のため生産・加工技術の研究開発と普及を進める	14.9
6	地域特産物の開発、ブランド化を進める	22.4
7	農産物の出荷流通販売対策を強化する	9.5
8	農業後継者を育成する	38.9
9	農村の生活環境を整備する	11.2
10	都市との交流活動を活発化する	3.7
11	パソコン等を利用した気象情報や市場情報のネットワーク化を進める	6.1
12	有機農業など環境保全型農業を推進する	15.1
13	県産農畜産物の地域内消費を進める	8.2
14	その他	1.2
15	わからない	10.0

県内の農業をもっと盛んにするためには、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思うかを聞いたところ、「農業後継者を育成する」と答えた人の割合が38.9%と特に多く、以下「地域特産物の開発、ブランド化を進める」(22.4%)、「有機農業など環境保全型農業を推進する」(15.1%)、「高収益農業推進のため生産・加工技術の研究開発と普及を進める」(14.9%)などの順となっている。

なお、前回調査結果と比較すると、「農業後継者を育成する」と答えた人の割合が7.8ポイント増加し、「有機農業など環境保全型農業を推進する」は3.1ポイント、「農作物の出荷流通販売対策を強化する」は3.4ポイントそれぞれ減少している。



## 【生活圏域別】

生活圏域別にみると、いずれの生活圏域でも「農業後継者を育成する」と答えた人の割合が最も多くなっているが、宇摩圏域ではその割合が他の圏域に比べて少なくなっている。

また、「耕作放棄地の発生防止と復旧を進める」と答えた人の割合は新居浜・西条圏域で、「農村の生活環境を整備する」は松山圏域で、「農産物の出荷流通販売対策を強化する」は宇和島圏域で、他の生活圏域と比較して多くなっている。

